

# 旭川中学校・旭川小学校 R5小中連携・一貫教育推進計画

## I 連携・一貫のおさえ

- ・義務教育学校や一貫校ではない旭川市教委が新たに目指す連携一貫教育を具体的に推進
- ・中一ギャップの解消を目指す小中の接続を模索
- ・中は小の細やかさを意識し、小は中の専門性を吸収しながらの授業改善

- ①学校運営協議会の一本化
- ②15歳段階で目指す生徒像を設定し教職員・児童生徒・保護者・地域で共有
- ③小中それぞれの教育活動を柔軟に改善

～教職員の意識改革による小中それぞれの良さを取り入れた実践のために～

**あさひやまの地域全体が「1つの学校」として機能  
⇒地域全体で目指す生徒像を共有**

- ★旭川中・旭川小は、連携・一貫校として「何ができるか」
- ★9年間「一貫」して行えること・小中で「連携」して行えることを整理

## II 小中の緩やかなプラットフォームづくりのために

児童生徒の成長への期待  
「わくわく感」の共有

小中教職員間の「学び合い」  
中学校教職員の専門性を生かした指導 ⇄ 小学校教職員のきめ細やかな指導

**児童生徒が日常的に「交流」ができる環境をつくる  
小中教職員間で日常的に「打診や根回し、会話」ができる環境をつくる**

## III 小中で「一貫」して行えること

### 1 目指す生徒像の実現を目指す授業改善

○小中で学力をいかに培うか、その手段を共有する。

- ・授業改善は、小中それぞれの課題を踏まえ、それぞれで研修を行う。
- ・授業改善の方向性を小中研修部間で共有し、全教職員に伝達。

#### Action A

授業改善研修を実施しての、目指す生徒像に基づく児童・生徒の成果と課題の共有

#### Action B

小中各教科全体計画（国・社・数・理・英・体）に基づく、9年間の学習内容の系統を見据えた授業実践

#### Action C

目指す生徒像を踏まえた「学びのスタンダード」の内容の再検討

#### Action D

全国学力・学習状況調査の結果交流による、小中共通の学力課題の明確化

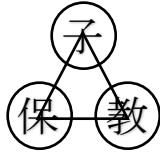
#### ★研修の充実

- ・小中合同研修の実施や、学力向上についての小中教職員による意見交流（ワークショップ）により授業改善の方向性の共有化を図る。
- ・小5・6年、中1の授業改善による進学段差の緩和を図る。

**日常的な交流**

## 2 目指す生徒像の実現を目指す一貫した生徒指導

○小中共通して、一人一人の児童生徒理解に基づく生徒指導を行う。



子ども（児童生徒）、保護者、教師の3者で、子どもの未来像を共有  
⇒ 子ども一人一人の望みや特性に応じた、9年間一貫した生徒指導

### Action A

小5～中3まで継続した3者懇談の実施（学年によって任意）  
⇒児童生徒の状況を土台にした懇談の実施により、より深い児童生徒理解に繋がる。  
⇒3者で目標を共有することにより、児童生徒の安心感に繋がる。

### Action B

9年間を見通した、発達段階に応じた生活のきまりの作成（デジタルシティズンシップ含む）

### Action C

いじめノックアウト宣言や児童生徒交流会の実施による一貫した児童生徒理解

### Action D

小中一貫した特別支援教育の実施

### Action E

小中一貫したキャリア・パスポートの活用方法の検討

★生徒指導に関する諸課題の共有

・いじめや不登校など小中でそれぞれに抱える生徒指導の課題を共有し、その解決策について学び合う場の設定。



日常的な交流

